

経営比較分析表（平成28年度決算）

長崎県長崎県病院企業団 富江病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	6	-	透訓	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	3,092	第2種該当	15：1	

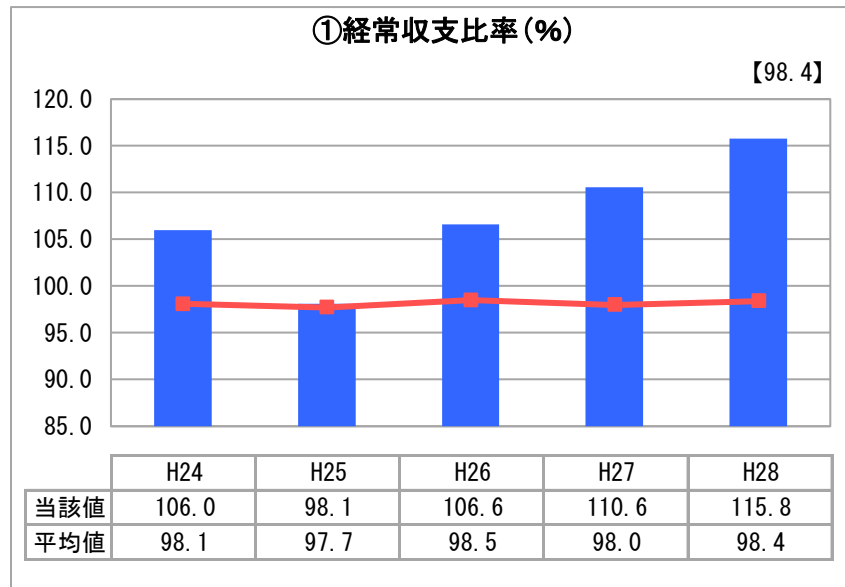
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

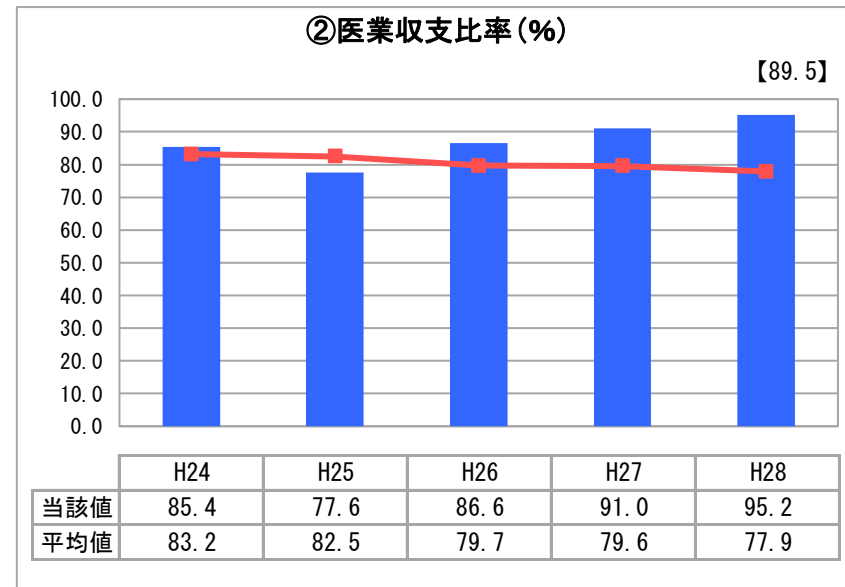
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
55	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	55
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
55	-	55

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	平成28年度全国平均

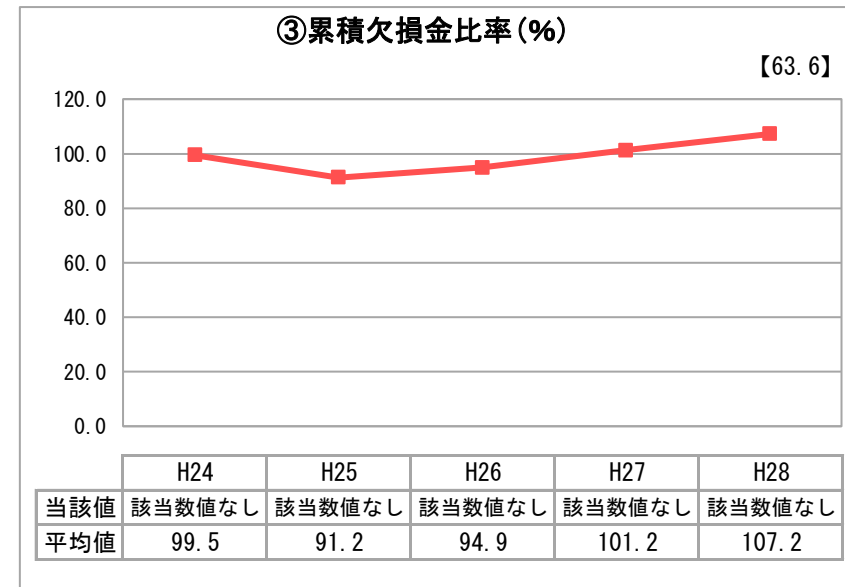
1. 経営の健全性・効率性



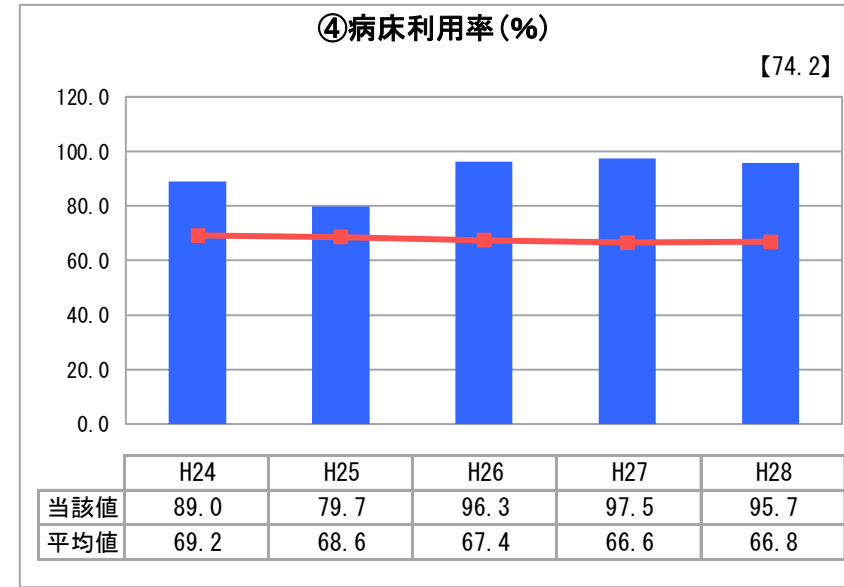
「経常損益」



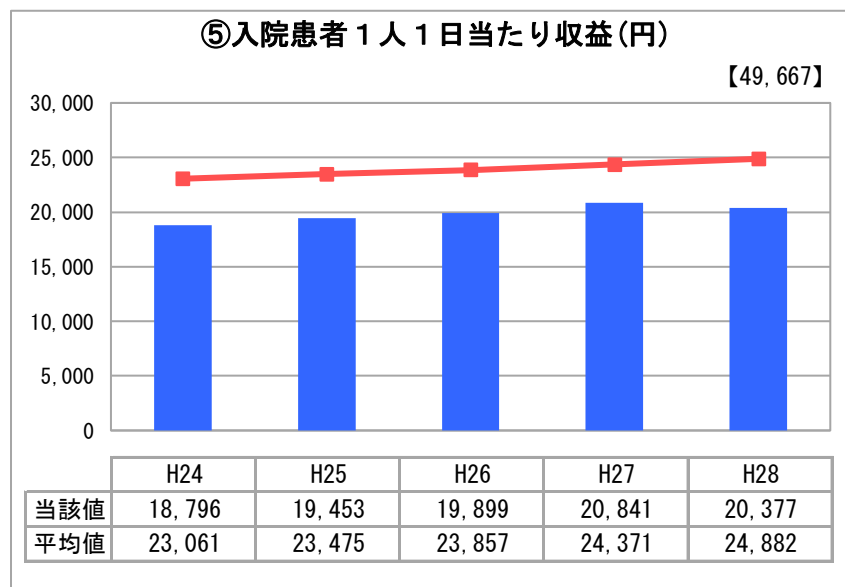
「医業損益」



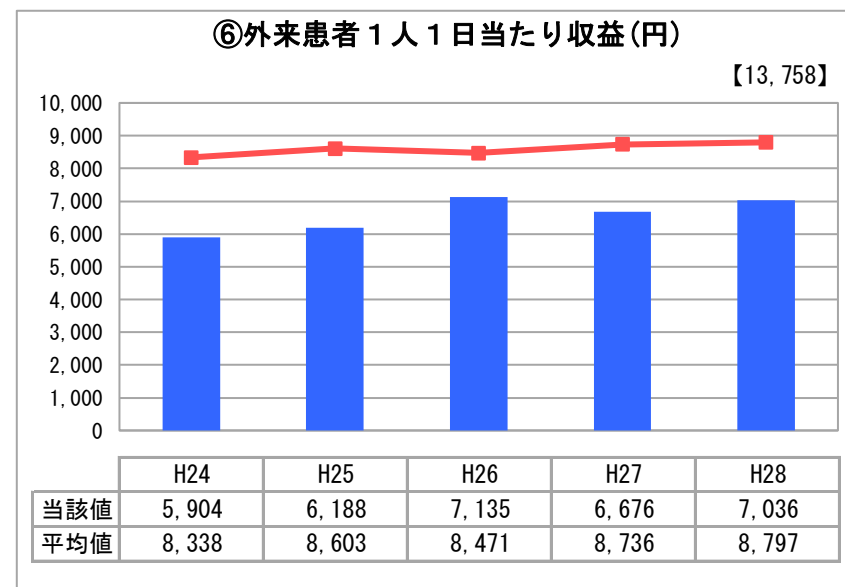
「累積欠損」



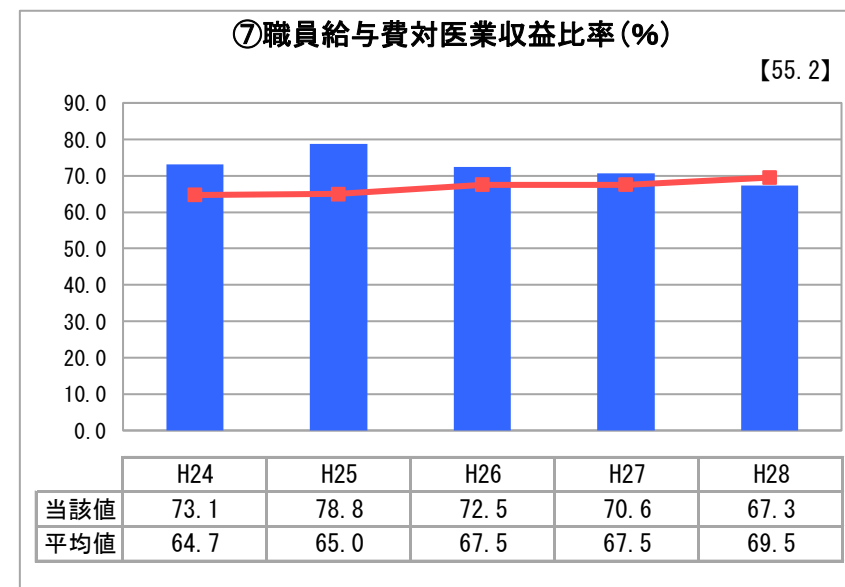
「施設の効率性」



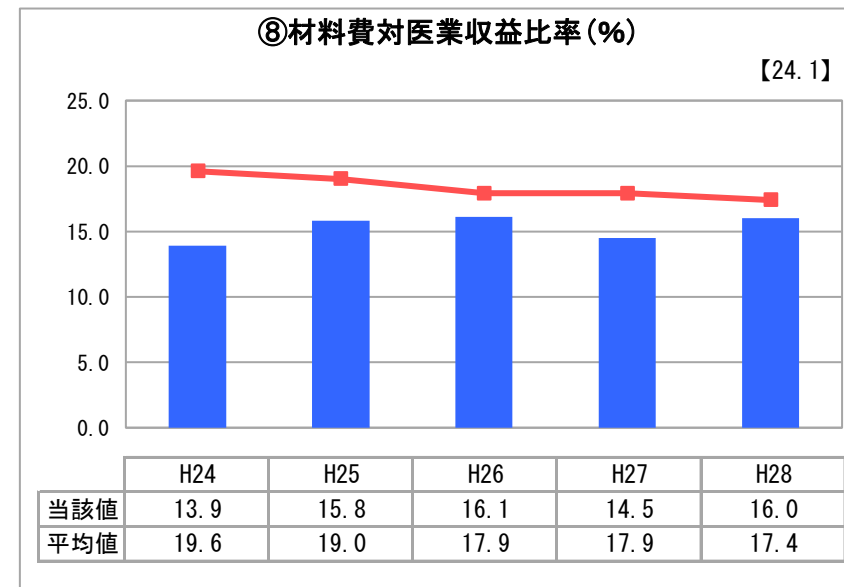
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

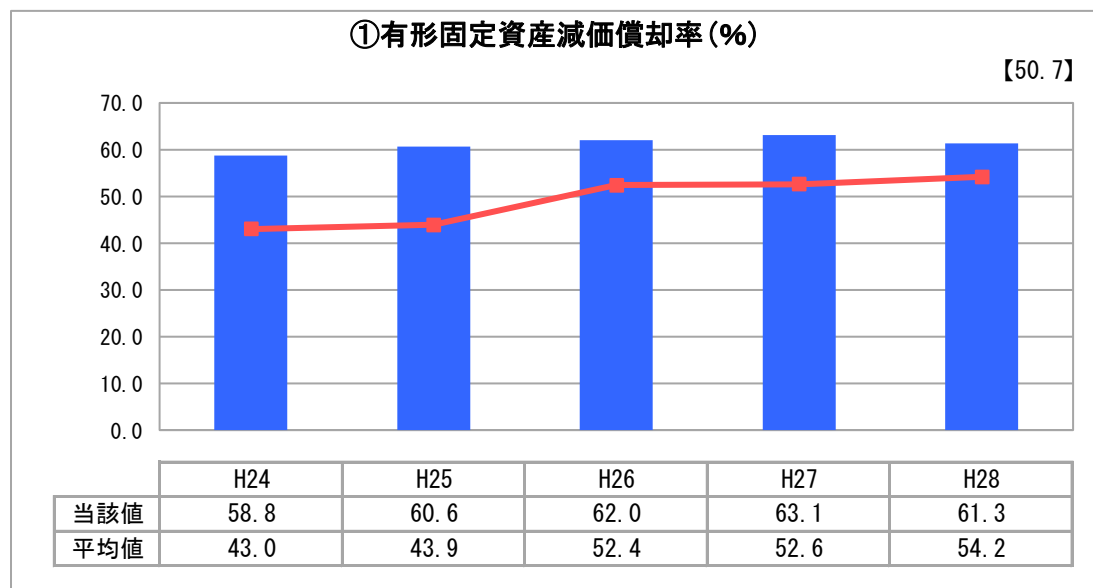


「費用の効率性①」

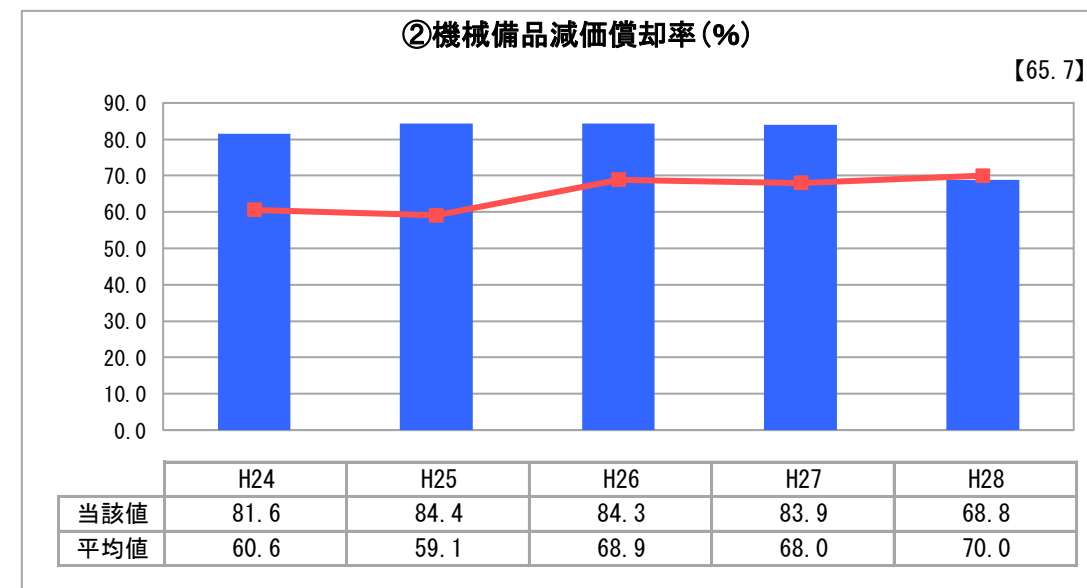


「費用の効率性②」

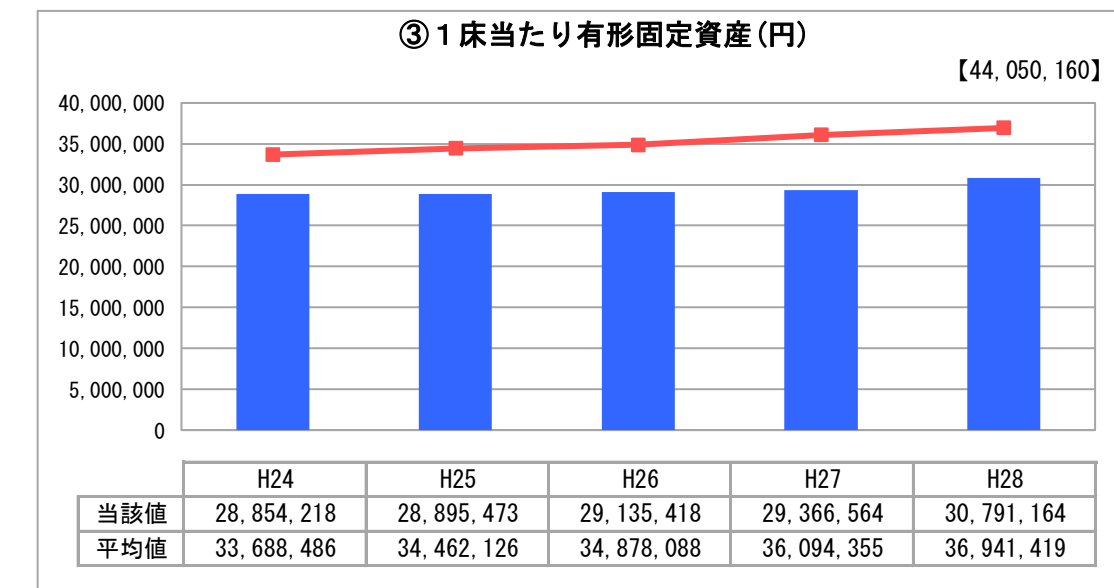
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

富江地区における地域病院として、救急医療に対応するとともに、慢性期、回復期を中心とした医療を提供している。
 介護施設や在宅に医師・看護師を派遣しているが、今後は人口が減少し、高齢化率は上昇し続け、有病高齢者、独居者、交通手段のない高齢者が増加し、介護者不足が予想される。その状況に対応できるように各施設や地域のケアマネジャーとの連携を強化する。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、100%以上を維持しており、健全な事業運営を行っている。（グラフ①③）
 病床利用率は、平成26年以降90%以上であり、入院収益が医業収益の70%を占める。入院単価は、15：1看護加算での入院基本料であり、患者の重症度も高くないので、1人当たりの単価が低くなっている。平均在院日数は31.3日。外来単価は、新患が少なく、有病高齢者が多数を占める再来患者が多く、院外処方が90%以上であるために、1人当たりの単価が低くなっている。（グラフ②④⑤⑥）
 常勤の医師、薬剤師、看護師、事務の職員の減により給与費も減少。材料費は薬品費は減少しているが、オムツ代等の診療材料費が増加している。（グラフ⑦⑧）

2. 老朽化の状況について

建物及び職員宿舎については、平成4年3月に完成し、平成19年2月に2階病棟のトイレ・浴室を改修している。空調設備が老朽化により、故障しているため、順次各箇所を更新している。今後、水道設備、ボイラー設備、エレベーター設備の更新が必要となる。
 医療器械については、一般撮影装置、生化学分析装置の更新は実施されているが、透視台、CTなどについては今後更新が必要となる。平成27年12月にPACSを導入し、平成29年3月に電子カルテシステムを導入するなど診療情報の電子化を進めており、今後は導入する医療器械においても電子カルテシステムとの接続が求められる。（グラフ①②③）

全体総括

平成28年度は、平成29年度から平成32年度まで4年間に取り組んでいく施策の事業計画と財政計画を明らかにした「長崎県病院企業団第2次中期経営計画」を作成し、平成28年度実績がベースとなっている。
 経営の健全性は達成されているが、常勤勤務の医師・薬剤師・看護師の確保が必要である。また、建物・設備の老朽化に伴う修繕や更新が今後必要となってくる。また、地域内の人口減少と高齢者の増加が進んでいることもあり、地域包括ケア病床の導入も視野に入れ、経営の安定と地域病院としての責務を果たしたい。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。